

研修歯科医のメンタルヘルスに影響を及ぼす要因に関する研究

浅田，徹之介

<https://doi.org/10.15017/1470547>

出版情報：九州大学，2014，博士（歯学），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

論文題目 研修歯科医のメンタルヘルスに影響を

及ぼす要因に関する研究

氏名 浅田 徹之介

論文内容の要旨

【目的】本研究では研修歯科医のメンタルヘルスに影響する諸因子の解明を目的として、1) 研修歯科医のメンタルヘルスの経時的変化、2) 研修歯科医のメンタルヘルスに影響を及ぼす要因、3) 仕事ストレインを指標とした研修環境の評価、について検討を行った。本研究の意義は、今後の研修歯科医のメンタルヘルスサポート体制の整備に寄与することにある。

【対象と方法】九州大学病院における平成 23、24 年度の研修歯科医を対象として、メンタルヘルスに関する調査を研修開始時、3 カ月後、6 カ月後、9 カ月後、修了時の 5 回実施した。分析対象は、調査結果が全て揃った 121 名とした。内訳は、単独方式ではプログラム A1 (口腔総合診療科にて一年間研修) 39 名とプログラム A2 (4 カ月毎に専門科をローテート研修) 45 名、臨床研修施設群方式のプログラム B では B1 (前半:口腔総合診療科、後半:出向) 20 名と B2 (前半:出向、後半:口腔総合診療科) 17 名である。調査および分析は精神健康度調査 (GHQ28)、バーンアウト調査 (MBI-HSS)、職業性ストレス調査 (JCQ22)、ストレス対処能力調査 (SOC13) により行い、仕事ストレインは JCQ22 における仕事の要求度・仕事のコントロール得点比 (D/C 比) を算出した。

【結果】1) 研修歯科医の精神健康度は研修時期による変動を認め、早期に協力型臨床研修施設へ出向する B2 ではメンタルヘルス不良に陥りやすく、後半に協力型臨床研修施設へ出向する B1 ではメンタルヘルス不良は出向中に認めなかった。単独方式のプログラム A1 と A2 は変動を認めなかった。プログラム間の研修時期による差では、下位尺度の「不安と不眠」において 3 カ月後と 6 カ月後で B2 が他のプログラムよりも不良であった。研修歯科医のバーンアウト状態は、主症状である「情緒的消耗感」がすべてのプログラムにおいて研修時期による変化を認めた。単独方式プログラム (A1,A2) では研修開始時と比較して他の時期の方が「情緒的消耗感」が高く、臨床研修施設群方式プログラム (B1,B2) では、外部の協力型臨床研修施設へ出向している際に「情緒的消耗感」が高くなっていた。2) 研修歯科医のメンタルヘルスに影響を及ぼす要因は研修時期によって変化し、研修開始時では「仕事のコントロール」、3 カ月後と 6 カ月後では「同僚の支援」、9 カ月後では「仕事の要求度」が関与していた。ストレス対処能力の関与は一年間を通して認められた。「性別」、「出身大学」、JCQ22 の下位尺度「上司の支援」は関与を認めなかった。3) 研修環境による仕事ストレインはプログラムによって異なり、単独方式ではプログラム A1 は一年を通じて差を認めなかったが、プログラム A2 は研修開始時において高い仕事ストレイン状態にあった。臨床研修施設群方式では、B1 は差を認めなかったが、B2 は協力型臨床研修施設への出向中に高い仕事ストレイン状態であることが明らかとなった。

【考察】研修歯科医は、一年間という短い研修期間で様々なストレス要因に曝され、時期によってその実態は刻々

と変化していた。中でも早期に研修環境が変わる A2 と B2 が他のプログラムよりもメンタルヘルス不良に陥りやすいことが明らかとなった。しかし、研修修了時には緩和され支障なく研修を終えていた。本研究結果から、研修プログラムと研修時期によるメンタルヘルスと強く関連する要因に配慮した、現行よりも綿密なメンタルヘルスサポート体制の整備が必要であると思われる。